



新校舎(3号館)供用スタート!!

～生徒自身が「主体的」「協働的」に学ぶことができる学習環境の整備～

広島工業大学高等学校
事務長 河野 和宏



はじめに

広島工業大学高等学校は、平成23年度から4つの改革をスタートさせ、最後の改革となる第4弾「『新校舎』建設」は、平成29年8月に完成し、9月から供用を開始しました。

当初、私は法人局財務部職員として携わっていましたが、平成28年度から本校事務長に配属替えとなり、新校舎の着手から完成に至るまでを細かく携わるようになりました。

この建物が完成に至るまでには、多くの時間と労力がかかっていることは言うまでもありませんが、あえてここでは、そのプロセス(流れ)を紹介させていただきます。

事業計画

この事業は平成27年度に入ってからスタートしました。

まず、教育計画から校舎規模を検討した結果、耐震診断で耐震性能に問題があると指摘された本館(旧館)棟と、隣接する旧体育館を取り壊して4階建に建替えることになりました。

ここで問題になったのが、本館(旧館)棟には「普通教室」「特別教室」が配置されていることから、仮設校舎を含め仮移転計画が必要になり、新校舎計画と並行して作業を進めることになりました。

また、将来、男女共学を再開することを念頭に置き計画を進めていましたが、平成27年12月初旬に平成29年度から男女共学を再開することが決定したことに伴い、平成28年度からの生徒募集対策を含め、新校舎以外の建

物も女子生徒に対応するための施設・設備改修計画が早急に必要になり、全体の事業計画は大規模なものになりました。

設計

新校舎の設計にあたり、男女共学を踏まえ計画段階から、男性では図り得ない感性・感覚を発揮してもらえるように女性の設計者を指名しました。

また、本校のプロジェクトチームとして、管理職以外に専門科目教員及び情報・図書などの関係教員を含め、月に1度の総合定例会議を開催し、設計・施工業者と協議を重ねていくこととしました。

まず、各階教室などの主な配置を以下のとおり決定しました。

1階には、教員室、特別教室(家庭科実習室、美術室)、会議室、放送室などを配置し、2階には、6つの機能を備えた「ICTエリア」「図書館エリア」「プレゼンテーションエリア」「アクティブラーニングエリア」「国際交流エリア(和室)」「自学自習エリア」を配置しました。

3・4階には、南北側に普通教室を配置し、中央に約9m幅の廊下としてオープンスペースを設けました。

いよいよ校舎などの解体工事(平成28年4月～7月)が始まり、並行して実施設計に入った段階で、各階各教室などの詳細(什器・備品等配置含む)を決めるため、広島市内の高校の新校舎、県外の高校・大学校舎及び什器メーカーのショールームを設計者とともに視察及び聞き取り調査を行い、最新の情報収集に努めました。

この頃には、特別教室での授業担当教員にも定例会議に出席してもらい意見を求め、設計に生かしました。



アカデミック ラーニング コモンズ

施工

平成28年8月1日、工事が開始されましたが、基礎工事期間中は、目立って工事の進捗が見えないため、本当に1年後に完成するのか誰もが疑問に思っていたかもしれません。基礎工事が終わり、鉄骨の骨組みができ、外壁が貼られてくると「できた」という感じになってきましたが、ここからが大変で、内装・設備工事が長期間かかるのです。そして、内装材の色、備付けの備品関係の詳細(例えば、黒板については、ホワイトボードにするのか、平面か湾曲か、縦・横の幅や床からの高さはどうするか)など、早急に決めなければならないことばかりで、毎週のように協議、検討及び決定を重ねていく日々でした。

また、工事期間中は解体工事を含め「騒音」「振動」を伴う作業があり、随分、生徒や教職員には迷惑をかけました。しかし、施工業者の協力もあり平成29年6月30日、建物の竣工を迎えました。

そして、7月からは「LAN工事」「無線LAN工事」「電話工事」「防犯カメラ工事」「什器・備品搬入」「図書室

引越し」とまだまだ多くの別途工事があり、9月の供用開始に向けてラストパートをかけ、8月下旬には引越し作業も無事に終わり、8月31日の始業式に間に合わせる事ができました。

特徴的な施設・設備

新校舎の特徴をいくつか紹介させていただきます。

1階の家庭科実習室は、裁縫実習台兼用の調理台が配置されており、タブレットのカメラ機能を利用して、教員の手元作業を撮影し、2台のモニターに映し出すシステムが設けられています。



家庭科実習室

最大の特徴がある2階アカデミックラーニング コモンズには、65台のタブレットを備え、生徒が「主体的」「協働的」な学習を行える環境が整っています。

「ICTエリア」には、150インチのプロジェクタの画像を映し出すことのできるホワイトボードと、90台のノートパソコン



プレゼンピット

コンを備えており、情報系の授業や生徒たちの様々なプレゼンが展開されています。

「アクティブラーニングエリア」には、様々な形の什器が設置され、グループワークごとに什器を組替えて、様々なアクティブラーニング型の授業が行われています。

「国際交流エリア(和室)」は、日本文化庁が華道を中心に利用しており、10月からは茶道の活動も始まりました。また、国際交流として、シンガポールの学生、ニュージーランドの生徒との交流の場としても活用されています。



和室

3・4階のオープンスペースには、休憩時間などで生徒と生徒、生徒と教員との語らいの場となるように、テーブルと椅子などを備えています。



オープンスペース

また、普通教室には、電子黒板機能付きプロジェクタを設置し、パソコンやタブレットを利用した授業が展開されています。



普通教室

おわりに

新校舎(3号館)を供用開始し、2か月以上が経過しました。

特に工夫を凝らした、2階アカデミックラーニング コモンズの稼働率は9月末現在、「プレゼンピット(ICTエリア)」が80%、「アクティブラーニングエリア」が50%で、このアカデミックラーニング コモンズを利用した授業を行いたいという予約が殺到しています。また、図書館エリアの放課後の利用率も上がっています。

完成までの日々を振り返ると、施設・設備については、もっとこうしておけば良かったと思うところはありますが、最新の設備を備えた学習環境で、教職員自身が常に研鑽を忘れず、より一層変わっていかねばならないことは無論、生徒がいきいきと学び、さらに新しい授業スタイルが生まれてくれることを期待しています。